令和２年度　津市立北立誠小学校　校内研究

１　研究主題

め　ざ　す　学　校　像

「やる気いっぱい　やさしさいっぱい　夢いっぱい」の学校

重　点　目　標

（１）「学びの十か条」による学習指導と生徒指導の充実
（２）「授業づくり十か条」による授業の質の向上
（３）仲間を大切にする心を育てる教育と一人ひとりを大切にする教育の充実
（４）保護者・地域に開かれた特色ある学校・安心安全な学校づくりの充実
（５）教職員が子どもの教育のために力を発揮します

研　究　主　題

対話を通して，自分の考えを広げ深め，表現できる子どもの育成
～見つめ直した考えを共有し合える国語科の授業を通して～

研　究　の　視　点

（１）国語科において，次のような授業を目指す。
・国語の基礎基本を身につけ，論理的思考力を高める授業
・子どもたち一人ひとりが，対話を通して深く学べる授業
・自分の考えを整理して，友だちに分かりやすく説明する授業
・友だちの考えを聞いて，自分の考えを深めたり広げたりし，主体的で対話的な深い学びにつながる「学び合い」の場を生かした授業
（２）特別支援教育の観点も取り入れ，分かる授業を進め，基礎学力の基盤を作る。
（３）三重大学や地域と積極的に連携した教育活動を展開することにより，子どもたちの興味・関心を高め，豊かなコミュニケーション力を養う。

２　研究主題設定の理由

～これまでの研究の経過～

本校では，本年度，国語科を中心とした授業研究の３年次を迎える。

これまでに「対話を通して，自分の考えを広げ深め，表現できる子どもの育成」を研修主題に定め，三重大学教育学部国語教育 守田庸一教授にご助言をいただきながら，物語教材を中心とした事前研・事後研修を行ってきた。

昨今の教育会では，「論理的思考力」の伸長が問われているが，例えば「論理」とは「順序・対比・類比・分類・類推・帰納・演繹・因果・仮定・推理」といったものが挙げられるだろう。多岐にわたる「論理」ではあるが，本校研修の助言者 守田教授は「論理とは関係性を見い出すものである」と分かりやすく定義づけている。それを踏まえ，２年次の研究から，全国学力・学習状況調査より分析された本校児童の弱み（２０１８年度研究紀要ｐ９６より引用　下記参照「国語の強みと課題」）をもとにし

て，子どもたちに文と文や場面と場面を「対比・類比」させて「何が同じで，何が違うか。」といったことを尋ねる，「比較する」問いを中心とした発問を毎時に組み込み，子どもたちの「論理的思考力」を伸長させるべく研修に励んできた。また，令和元年度の全国学力・学習状況調査より分析された本校児童の強みと見えてきた課題は下記の通りであり，目的や意図に応じて，自分の考えの理由を明確にし，まとめて書くことや，相手に自分の伝えたいことを論立てて，分かりやすく表現する力に課題が残っていた。

令和元年度「全国学力・学習状況調査」の自校採点結果から

＜国語の強みと課題について＞

本校児童の強み

・無回答率が低い。
・選択式の問題に強い。
・書く力の高まりが見られる。
・接続語を適切に用いて，文と文との意味のつながりを考えながら書くことができる。
・話し手の意図を捉えながら聞き，自身の考えをまとめて書くことができる。

見えてきた課題

・目的や意図に応じて，自分の考えの理由を明確にし，まとめて書くことに課題が残る。
・相手に表現する力に課題がある。

～今年度の研究主題～

本年度より新しくなった新指導要領には，各教科で育むべき力が明示化されている。国語科の目標としては「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力，人間性等」といった３つの柱が示された。光村図書の教科書でも，「構造と内容の把握　→　精査・解釈　→　考えの形成　→　共有」といった「『読むこと』の学習過程」が重んじられながら，新教材が取り入れられたり，単元が入れ替えられたりしている。

このような背景を踏まえた上で，本校児童の強み・弱みを踏まえると，特に「思考力」および「学びに向かう力」に注力せねばならないと考えた。そのため，「対話を通して，自分の考えを広げ深め，表現できる子どもの育成～見つめ直した考えを共有し合える国語科の授業を通して～」を３年次の研修主題に掲げ，前年度末に共通理解を図った下図の単元デザイン案・授業デザイン案をもとに「比較する」ことに重きを置きながら，一人ひとりの子どもたちが自分の考えを見つめ直せるように研修を進め，互いの考えを「共有」するには，「どのような単元のめあてを組み，その物語が伝えようとしている核心（作品の心）を読み深めさせるのか」「どのような形式で対話するのか」について３年次計画のまとめとしての研修を行いたい。

単元デザイン　モデル

「この話(文章)を読んだことで何がわかる・できるようになりましたか。」

第1次　考えの土台を作らせる。

① 話（物語文・説明的文章）の骨格を捉えさせる。

② 核心(作品の心)＝読み手としてそれぞれが考えさせられたことを捉えさせる。

※指導者が捉えた主題――指導者の読みを押し付けない。

第2次　本文全体を俯瞰的に、叙述と叙述を比較させて読ませる。

① 中心人物　　と　対人物を比べさせる。

② 中心人物　　と　出来事（因果関係）を比べさせる。

③ 中心人物やその内面　と　情景描写を比べさせる。

④ 表現（言動）　　と　表現（言動）を比べさせる。

※敢えて本文中に叙述されていることの意味を考えさせる。

第3次　学習のまとめとして学習前の自分と学習後の自分を比較させて読ませる。

毎時間、振り返らせる。

ふりかえり　発問例

- 「授業前の自分と、授業後の自分は何が変わりましたか。」
- 「今日の授業で何がわかりましたか。」
- 「今日の授業を終えて、考えを変えましたか。」
- 「今日の授業で読み深めて、改めて、この話をどう思いましたか。」

授業デザイン　モデル

※ 年配の授業デザインの一例であり、他の時間とのつながりも踏まえて、柔軟に毎時の授業デザインし、展開させるようとする。

たしかめ

- これまでの学習内容を確認させる。（五分）

めあての提示

- 本時の「めあて」を確認させる。（一分）

文章との対話

〈個人思考（四分）〉

- 本時の発問に対する自分の考えをノートに書かせる。

仲間との対話

〈ペア対話（五分）〉＋〈全体対話（十分）〉

- 互いに自分の考え（主張）を「考えの根拠」や「その根拠を選んだ理由」を明確にさせながら交流させる。

自分との対話

〈自分の考えを見つめ直す。（五分）〉

- 交流の際にだれのどの考えによって、自分の考えが広がったり、深まったりしたかを明確にさせて「自分の考え②」を書かせる。

仲間との対話②

〈ペア対話②（五分）〉＋〈全体対話②（十分）〉

- 児童の実態や話し合いの内容を見て、柔軟に対話形式を選び、仲間と再び対話させる。

自分との対話②

〈ふりかえり（五分）〉

- 本時の授業のふりかえりを書かせる。